

◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2024年10月)

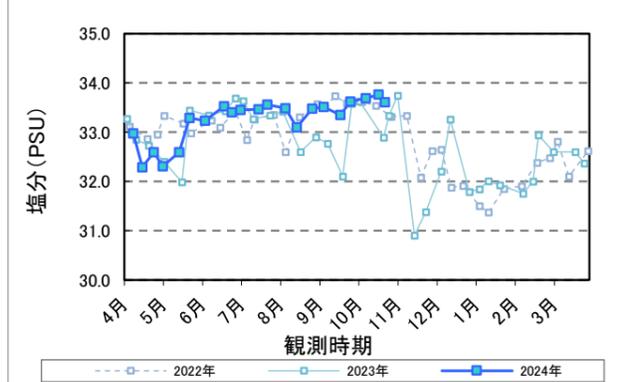
※海洋観測：紋別市  
※動物プランクトン分析：(株)エコニクス

海洋環境データ

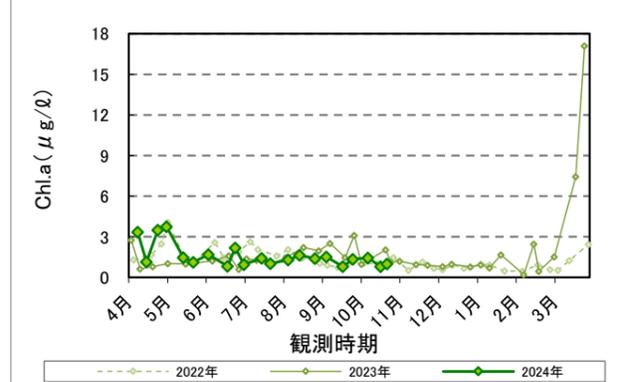
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



◎Chl. a (0~9mまでの平均値)



出現量の多かった種類



・Acartia omorii ●  
(カイアシ類: ホヒゲミジンコ)  
体長: ♀0.9-1.3mm, ♂0.8-1.2mm。九州以北の北西太平洋沿岸に分布する。関東以南では春に内湾や沿岸で多くなる。



・Paracalanus parvus s. l. ●  
(カイアシ類: コヒゲミジンコ)  
体長: ♀0.8-1.0mm, ♂0.7-1.0mm。全世界の沿岸域表層。日本では各地沿岸に分布するカラヌス目優占種の1種で、本州中部では春に、東北以北では夏に多くなる。



・Copepoda (nauplius)  
(カイアシ類のノブ)リウス幼生)  
カイアシ類の発生途中の幼生。脱皮を繰り返し複数の発生段階を経て成体になる。海産魚類の仔魚生残には餌としてのカイアシ類のノブ)リウス幼生密度が決定的といわれている。



・Spionidae (larva)  
(多毛類: ス)オ科の幼生)  
多毛類の発生途中の幼生。スピオ科は典型的な堆積物食者で、一般に内湾の泥中に生息する多毛類であるが、中には貝殻に穿孔して生活するものも含まれる。



・Oikopleura dioica ●  
(尾虫類: ヲカサマホ)ヤ)  
体長は最大で幹幹: 1.3mm、尾部: 3.9mmであるが、大部分の成熟個体は幹幹: 0.5mm、尾部: 2mmまで。日本各地の沿岸域、ときに内湾域では濃密群を形成する。雌雄異体である。

概要

Table with 3 columns for dates 10月7日, 10月17日, and 10月22日. Rows include average temperature, salinity, Chl. a, sedimentation, and main species found.

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl. aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl. a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[ ]内の“+”はサンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである([+]出現、[+]やや多い、[+]多い、[+]かなり多い、[+]極めて多い)。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(●冷水性種、●暖水性種、●汽水性種)。

※10月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。

※参考文献: ①千原・村野 (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会]... ②山路 (1966) 日本海洋プランクトン図鑑[保育社]... ③岩間市立微生物館 監修 (2011) 日本の海産プランクトン図鑑[共立出版]